



油断大敵。あなたの感覚は大丈夫？

生徒のみなさんへ

● 今、皆さんは、これまでの生活様式とは違った、窮屈に感じられる学校生活を、毎日よく我慢をしながら過ごしていると思います。自分の健康管理・チェックをしっかり行う、密にならない環境を作る、手洗い・消毒を何回も何回も繰り返し行う、一言もしゃべらない給食・・・など、細かな気配りや思いやりのある行動を心がけている姿を見ると、皆さんの頑張りがよく伝わってきます。

ただ、北九州市の感染状況が改善されてきていること、時間が経つにつれ危機意識が薄れてしまっていることなどから、次のような場面をよく目にするようになってきたのも事実です。

- マスクがずれている
- 1mの距離が保てていない
- 近くで向き合っちゃべっている
- 気軽に教科書など個人のを貸し借りしている
- 他の人の物や机などを触っている
- 密になって登下校している
- 普段できていても部活動になったらつい密

だんだん新型コロナウイルスのことが、どこか「よその世界のこと」となっていないでしょうか。北九州市において、校内で感染者が出てしまった学校は複数存在しており、きっと、その学校の生徒の感覚は皆さんと違ったものだろうと思います。ですから、「この感染症は、いつでも、どの学校の中でも感染が起こる可能性がある、油断できないもの。」ということ思い出し、今、もう一度、自分の取っている行動を振り返ってみる必要があります。そこで、3年3組木佐貫先生の学級通信に、次のような内容がありましたので紹介します。今、自分でチェックしてみましょう。

✓ あなたは大丈夫?? 感染症対策自己チェックシート

★登校編★

- 朝起きたら体温を測っている。
- 健康チェックリストに記入し、風症状がないかチェックしている。
また、その時に記入欄の日付がずれていないか確認して記入している。
- 保護者の印鑑またはサインをもらい、クリアファイルに入れている。
- 周りとは1m以上間隔をあげながら登校している。
- 健康チェックリストはかばんの一番取り出しやすいところに入れている。
- マスクを着用し、ハンカチ・水筒を準備している。
- 門を抜けたら先生に健康チェックリストを確認してもらっている。
- 教室に行く前に手を洗っている。



★手洗い編★

- 1回の手洗いに30秒かけている。
- 指先、つめ、手首も忘れずに洗っている。
- 手を洗った後は清潔なハンカチで拭いている。



★学校生活編★

- 友達と1m以上距離をあげている。またはあけるよう意識をしている。
- 大声でしゃべらないようにしている。
- 移動教室後は手を洗っている。



★給食編★

- 当番が準備している間は静かに待っている。当番の人は喋らずに準備している。
- 保健委員の手洗いの号令を聞いて動いている。
- 手を洗った後は何も触らないようにしている。もし触ったらまた手を洗っている。
- 食事中はしゃべらずに食べている。

★下校編★

- 周りとは1m以上間隔をあげながら帰っている。
- 部活動や校外でも感染症対策を意識している。
- 家に帰ったらまずは手洗いをしている。



★気持ち編★

- どんな状況になってもコロナには負けないという気持ちをもっている。
- 一人ひとりが意識して取り組むことが大切であると知っている。
- 不安に負けそうな友達と励まし合おう！応援し合おう！という気持ちがある。



★ぜんぶで 24 項目のチェックリスト、あなたは何点でしたか??★

- 0～10 点 何をやっているんだ!! コロナウイルスは目に見えないほどの小さな敵、そんな相手にそんな軟弱な気持ちで挑むものではないぞ!! 自分だけの問題ではない。大切な人を巻き込んでしまう恐いウイルスが側にいるのだ。意識を立て直す必要があるようだ。
- 11～20 点 惜しい!! 抜けていたところをもう一度確認しよう。気持ちの緩みからウイルスは入ってくるぞ。生活をふり返って、意識していけば大丈夫!! 感染症対策を強化していこう。
- 21～24 点 感染症対策バッチリだ!! このまま続けよう。明るい未来は必ず来るぞ!!

このチェックを見てみると、一日のうちに皆さんはとても多くの注意を払いながら生活しているということに、改めて気付かされます。これを「面倒くさい」と感じることは自然なことですが、その一歩先、「今、これだけのことをやる必要がある状況なのだ」という感覚、危機意識をもつことが大切です。

よく、今、人との距離をとることの大切さを伝える際に「思いやりの距離」という言葉を使いますが、あなたはその意味についてよく考えたことがあるでしょうか。この感染症は、感染しても症状が出ない人もいれば、重症化する人もいるという、とてもやっかいな病気です。ですから、今、あなたが元気でも、感染していないとは言いきれないのです。自分がもし感染していたら、という気遣い（思いやり）をもって他の人にうつさないよう行動する、そんな風に「意識して行動する」ことで自分も相手も守ることができます。それが「思いやり」という言葉が付いた意味です。本校の「思いやり四か条」もこのような思いが込められています。是非、皆さん一人一人が「思いやりの行動」をできるよう、心がけていきましょう。皆さんの団結力が試されています。

つい先日、こんなことがありました。授業中ある学級のある生徒が筆入れを落としてしまい、中身が床に散らばってしまいました。すると、近くにいた二人のクラスメイトがすぐにペンを拾ってあげていました。思いやりの気持ちが伝わるとも良い光景です。しかし、今は別の視点で考える必要もあります。感染症対策として他の人やものを触ることを避けなければならないという状況があります。だから、あえてペンを拾わないということも、今では大切な思いやりなのです。今はこちらの思いやりを選択しなければなりません。本当に悲しくなってしまう状況ですが、お互いに今の状況を理解しながら、心遣い、思いやりのある行動について考えていけたらよいですね。

● 「今、他の誰かのためにできること」エピソード紹介 ●

6月30日、熊西中学校の感染症拡大防止対策として働いてくださった業務補助員の岡崎さんが、契約終了日を迎えました。5月22日から、登校時の健康チェック、校内のあらゆる所の消毒（特別教室の毎時間の授業後の机やイス・道具、保健体育の更衣場所、ドア、スイッチ、窓、手洗い場、トイレ、手すりなどを一日に何度も）、下校指導等、先生方と共に本当に大変な仕事に取り組んでくださいました。陰で皆さんの健康を支えてくれた功労者です。

この日、岡崎さんが退勤する時、玄関を出た場所で合唱部の皆さんが待っていました。なんと岡崎さんへの感謝の気持ちを込めてお別れの合唱を披露してくれたのです。きっと岡崎さんにとって、心温まる思い出深い瞬間になったことと思います。合唱部の皆さんの思いやりの心に感謝します。



グラウンドにも美しい歌声が響き渡りました。

拍手で見送られ、花道を照れながら歩く岡崎さん。

報告です。7月3日にうれしい知らせが入りました。7月6日から8月5日まで、再び岡崎さんが本校勤務と決まりました。合唱部の皆さん、8月にも、もう一度お願いしますね。